

2019年3月14日
一般社団法人 日本電機工業会(JEMA)

2019年度 電気機器の見通し

一般社団法人 日本電機工業会(JEMA)では、2019年度 電気機器の見通しを取りまとめましたので、以下のとおりご報告いたします。

1. 電気機器の状況

(1) 2018年度の状況

2018年度の世界経済は、当初緩やかな回復基調が見られたものの、下半期より中国経済の減速が顕著となりつつあります。わが国経済については、年度を通じ比較的安定して推移したものの、今後の中国経済の動向を注視する必要があります。

重電分野では、国内においては2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた首都圏再開発がピークを迎えるものの、中国経済の減速や、石炭火力発電向け案件停滞の影響があり、前年度を下回る見込みです。

白物家電分野は、昨夏の記録的な猛暑によりルームエアコンが好調に推移し、また、省エネ製品・高付加価値製品や、多様化するライフスタイルを捉えた製品等が堅調に推移しました。

このような中、2018年度の重電・白物家電機器を合わせた電気機器の国内生産は、5兆5,500億円、前年度比98.4%となる見込みです。また、白物家電機器の国内出荷は、2兆4,404億円、前年度比103.1%となる見込みです。

(2) 2019年度の見通し

2019年度は、中国経済の減速や英国のEU離脱などをはじめとした不確実性の高まりによる景気後退に注視する必要があります。

重電分野では、国内は概ね堅調な水準を保つとみていますが、今後の世界経済の影響に注視する必要があります。

白物家電分野においては、10月に実施される消費税増税の影響は、年度で見ると軽微なものと見通すものの、ルームエアコンは昨年度の高水準に対する反動減が予想されることから、白物家電分野全体で見ると前年度を下回るとみています。

このような中、2019年度の重電・白物家電機器を合わせた電気機器の国内生産は、5兆4,214億円、前年度比97.7%となる見通しです。また、白物家電機器の国内出荷は、2兆4,123億円、前年度比98.9%となる見通しです。

【表1】電気機器の2018年度実績見込みと2019年度見通し

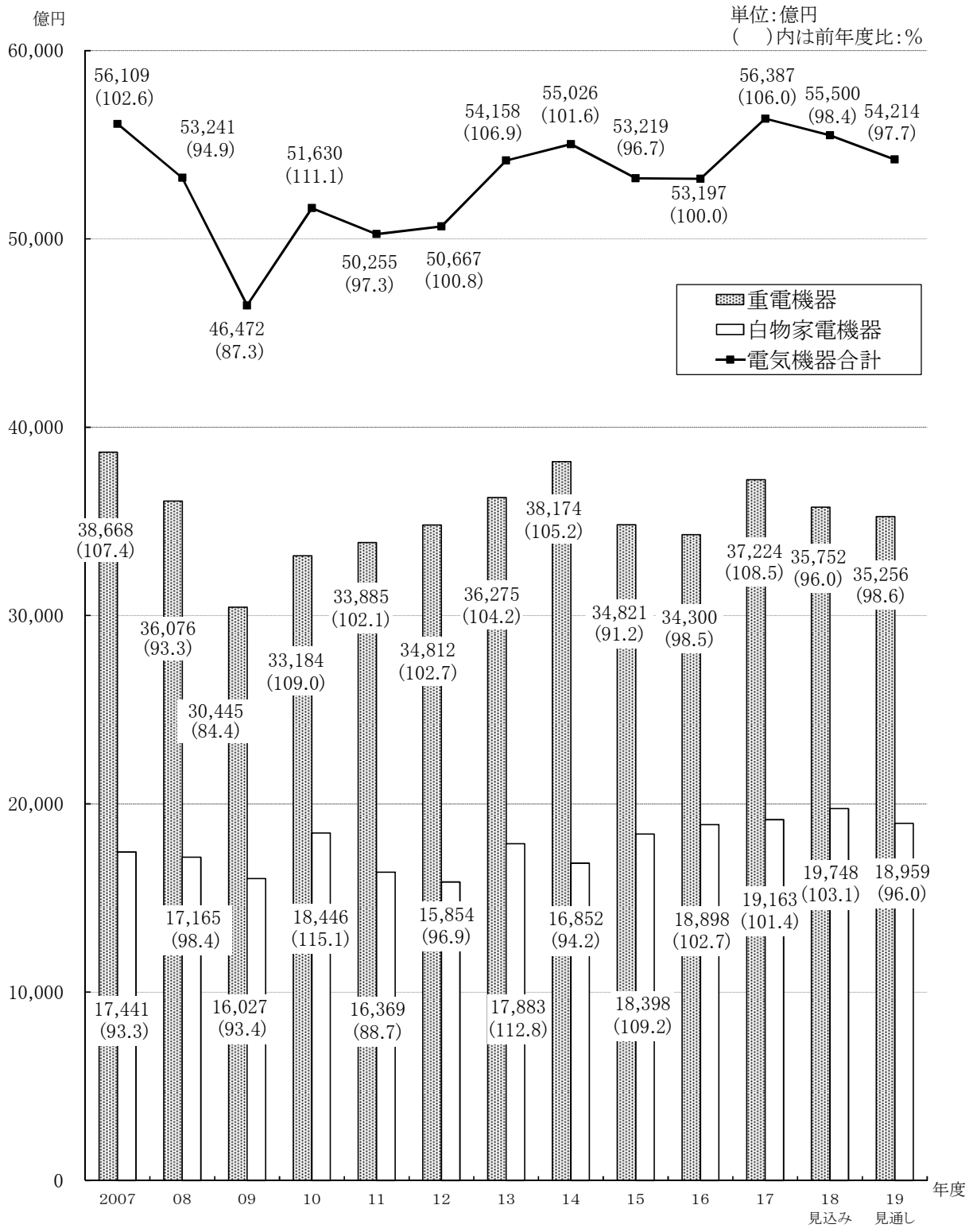
		2018年度実績見込み		2019年度見通し	
		金額 (億円)	前年度実績比 (%)	金額 (億円)	前年度実績 見込比(%)
国内 生産	重電機器	35,752	96.0	35,256	98.6
	白物家電機器	19,748	103.1	18,959	96.0
	電気機器合計	55,500	98.4	54,214	97.7
白物家電機器国内出荷		24,404	103.1	24,123	98.9

備考1: 国内生産の実績見込み: 2018年度上期は、経済産業省 生産動態統計を適用しました。

2018年度下期見込み及び2019年度見通しは、JEMAが策定しました。

2: 白物家電機器の国内出荷の実績見込み・見通しは、JEMA統計、日本冷凍空調工業会統計(ルームエアコン)をベースに、JEMAが策定しました。

3: 端数四捨五入のため、積上げ値と合計値が一致しない場合があります。



【図1】電気機器の年度別国内生産額推移

2. 重電機器分野

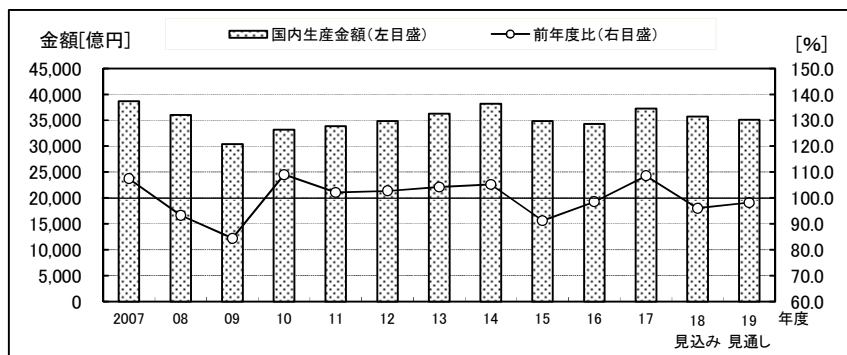
【表2】重電機器の国内生産 2018年度実績見込みと2019年度見通し

	2018年度実績見込み		2019年度見通し	
	金額 (億円)	前年度実績比 (%)	金額 (億円)	前年度実績 見込比(%)
発電用原動機	4,363	75.4	3,615	82.9
ボイラ	1,890	57.9	1,776	94.0
蒸気タービン	1,013	71.7	653	64.5
ガスタービン	1,460	131.3	1,187	81.3
回転電気機械	9,687	102.8	9,664	99.8
うち、交流発電機	935	107.6	833	89.1
うち、交流電動機	3,434	101.9	3,566	103.9
うち、サーボモータ	1,217	101.7	1,181	97.1
静止電気機械器具	7,207	97.3	7,173	99.5
うち、変圧器	2,357	111.5	2,326	98.7
うち、電力変換装置	4,101	89.4	4,084	99.6
うち、サーボアンプ	1,668	81.5	1,619	97.1
開閉制御装置	14,495	99.3	14,802	102.1
うち、閉鎖形配電装置	2,102	101.9	2,210	105.1
うち、監視制御装置	2,512	101.0	2,625	104.5
うち、低圧開閉器・制御機器	5,082	99.6	5,098	100.3
うち、プログラマブルコントローラ	1,145	85.7	1,190	103.9
重電機器合計	35,752	96.0	35,256	98.6

備考1:国内生産の実績見込み:2018年度上期は、経済産業省 生産動態統計を適用しました。

2018年度下期見込み及び2019年度見通しは、JEMAが策定しました。

2:端数四捨五入のため、積上げ値と合計が一致しない場合があります。



【図2】重電機器の年度別国内生産額推移

(1) 2018年度の国内生産実績見込み

2018年度の国内生産は、3兆5,752億円、前年度比96.0%と前年度を下回る見込みです。

発電用原動機は、4,363億円、前年度比75.4%と前年度を大きく下回る見込みです。ガスタービンは、国内電力向けを中心に前年度を上回りますが、蒸気タービン及びボイラは、石炭火力発電向け案件の停滞の影響により国内、輸出ともに前年度を下回る見込みです。

回転電気機械は、9,687億円、前年度比102.8%と増加する見込みです。交流電動機は、国内工場の堅調な省力化需要、及び2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた首都圏再開発がピークを迎えることで、前年度を上回る見込みです。さらに、サーボモータは、下期に中国経済の減速による影響があるものの、半導体及び液晶・有機ELの製造装置向けなど国内及びアジアでの設備投資の活況により、前年度を上回る見込みです。

静止電気機械器具は、7,207億円、前年度比97.3%と減少する見込みです。変圧器は、国内電力向けを中心に前年度を上回る見込みですが、電力変換装置は、太陽光向けパワーコンディショナの低調及び中国経済の減速を受け、前年度を下回る見込みです。さらにサーボアンプの大幅な減少は、中国経済の減速に加え、前年度の一時的な生産増の反動が大きく影響しています。

開閉制御装置は、1兆4,495億円、前年度比99.3%と前年度並みとなる見込みです。閉鎖形配電装置は、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた首都圏再開発がピークを迎え、監視制御装置は、国内製造業向けの需要が堅調であることから前年度を上回る見込みです。一方、低圧開閉器・制御機器は、プログラマブルコントローラが中国を中心とするアジアでの設備投資の減速により前年度を下回る見込みです。

(2) 2019年度の国内生産見直し

2019年度の国内生産は、3兆5,256億円、前年度比98.6%と前年度を下回る見直しです。

発電用原動機は、3,615億円、前年度比82.9%と減少する見直しです。ボイラ及び蒸気タービンは、国内、輸出ともに石炭火力発電向け案件の停滞が継続し、ガスタービンも、輸出向けを中心に前年度を下回る見直しです。

回転電気機械は、9,664億円、前年度比99.8%と前年度並みとなる見直しです。交流電動機は、前年度と同様に好環境が継続し前年度を上回る見直しです。一方、サーボモータは、前年度からの中国経済の減速による影響が続き、前年度を下回る見直しです。また、交流発電機は、輸出向けを中心に前年度を下回る見直しです。

静止電気機械器具は、7,173億円、前年度比99.5%と前年度並みとなる見直しです。電力変換装置は、太陽光向けパワーコンディショナが輸出向けを中心に回復し、前年度並みとなる見直しです。サーボンプはサーボモータ同様、中国経済の減速による影響を受け、前年度を下回る見直しです。

開閉制御装置は、1兆4,802億円、前年度比102.1%と前年度を上回る見直しです。閉鎖形配電装置は、前年度からの首都圏再開発需要が続き、監視制御装置は、前年度に続き国内製造業向けの需要が堅調であることから、前年度を上回る見直しです。また、低圧開閉器・制御機器は、プログラマブルコントローラが、中国を中心とするアジアでの設備投資減速の影響は残るものの、国内を中心に回復し、前年度並みとなる見直しです。

[参考] 受注形態別の重電機器 2019年度の生産見直し

【表3】重電機器の国内生産 2018年度実績見込みと2019年度見直し(受注形態別)

	2018年度実績見込み		2019年度見直し	
	金額 (億円)	前年度実績比 (%)	金額 (億円)	前年度実績 見込比(%)
受注生産品*1	14,245	92.2	13,672	96.0
発電用原動機	4,363	75.4	3,615	82.9
電力・産業向け電気設備	9,882	102.3	10,057	101.8
産業用汎用電気機器*2	15,017	97.9	15,057	100.3
その他の重電機器*3	6,490	100.9	6,527	100.6
重電機器合計	35,752	96.0	35,256	98.6

*1 受注生産品

発電用原動機: ボイラ、蒸気タービン、ガスタービン

電力・産業向け電気設備: 電力及び産業(自動車、鉄鋼等)向けの発電機、電動機、変圧器等

*2 産業用汎用電気機器: 汎用インバータ、サーボモータ、プログラマブルコントローラ等。

需要先が多岐にわたる、主に標準仕様で生産する量産品。流通は代理店経由が多い。

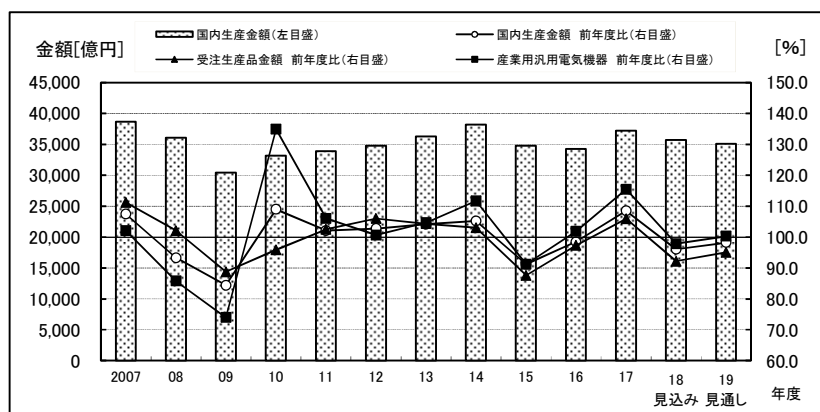
*3 その他の重電機器: 電気炉、電気溶接機、分電盤等。

機器としては受注生産品または産業用汎用電気機器であるが、データとして分類できない機器。

備考1: 国内生産の実績見込み: 2018年度上期は、経済産業省 生産動態統計を適用しました。

2018年度下期見込み及び2019年度見直しは、JEMAが策定しました。

2: 端数四捨五入のため、積上げ値と合計が一致しない場合があります。



【図3】重電機器の年度別国内生産額推移(受注形態別)

3. 白物家電機器分野

3.1 国内出荷の状況

【表4】白物家電機器の国内出荷 2018年度実績見込みと2019年度見通し

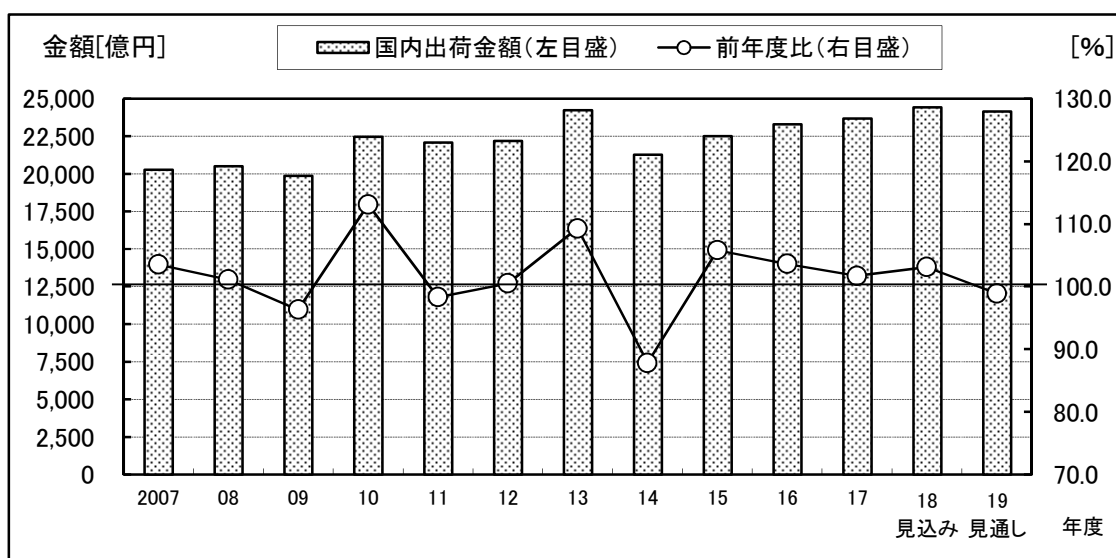
	2018年度実績見込み		2019年度見通し	
	金額 (億円)	前年度実績比 (%)	金額 (億円)	前年度実績 見込比(%)
ルームエアコン	7,803	106.3	7,335	94.0
電気冷蔵庫	4,433	103.2	4,590	103.5
電気洗濯機	3,479	103.6	3,556	102.2
電気掃除機	1,039	101.5	1,037	99.7
ジャー炊飯器*	1,096	98.5	1,088	99.2
その他(上記5品目以外)	6,554	100.4	6,517	99.4
白物家電機器合計	24,404	103.1	24,123	98.9

*ジャー炊飯器: 保温機能(ジャー)がついた電気炊飯器。

備考1: 実績見込み・見通しは JEMA 統計をベースに JEMA が策定しました。

なお、ルームエアコンは、日本冷凍空調工業会が発表した台数をベースに JEMA が策定しました。

2: 端数四捨五入のため、積上げ値と合計値が一致しない場合があります。



【図4】白物家電機器の年度別国内出荷額推移

(1) 2018年度の国内出荷実績見込み

2018年度の国内出荷は、2兆4,404億円、前年度比103.1%と4年連続で前年度を上回る見込みです。

製品別にみると、ルームエアコンが昨夏の記録的な猛暑により 106.3%と好調に推移し、また、電気冷蔵庫も 103.2%、電気洗濯機も 103.6%、電気掃除機も 101.5%と、主要製品が前年度を上回る見込みです。一方、ジャー炊飯器は、98.5%と前年度を下回る見込みです。

国内市場は、既に始まっている日本の人口減少の中、買替え需要が主体であるものの、共働き・少人数世帯や高齢化世帯の増加にも支えられ、また、多様化するライフスタイルを捉えた製品として、食品のまとめ買いに対応した大容量冷蔵庫、大物洗い・まとめ洗いに対応する大型洗濯機など、省エネ製品・高付加価値製品が堅調に推移する見込みです。

(2)2019年度の国内出荷見通し

2019年度の国内出荷は、2兆4,123億円、前年度比98.9%と、高水準を維持しながらも、前年度を下回る見通しです。また、10月に実施される消費税増税の影響は、年度を通してみると軽微なものを見通しています。

製品別では、ルームエアコンは天候を平年並みと見ると、2018年度の記録的猛暑による高い水準に対する反動減で、上期、下期ともに減少し、94.0%と前年度を下回る見通しです。

電気冷蔵庫は103.5%、電気洗濯機も102.2%と、いずれも消費税増税前の駆け込み需要の影響で、大容量製品が増加する見通しです。また、電気掃除機は99.7%、ジャー炊飯器も99.2%と、前年度並みの水準を維持する見通しです。

3.2 国内生産の状況

【表5】白物家電機器の国内生産 2018年度実績見込みと2019年度見通し

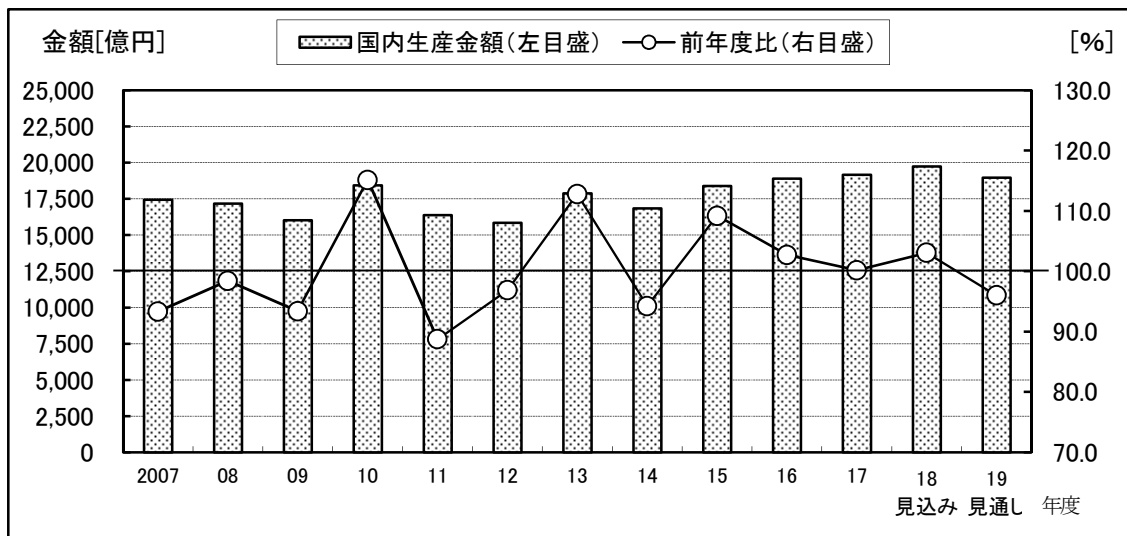
	2018年度実績見込み		2019年度見通し	
	金額 (億円)	前年度実績比 (%)	金額 (億円)	前年度実績 見込比(%)
ルームエアコン	6,242	107.0	5,753	92.2
電気冷蔵庫	2,647	97.2	2,633	99.5
電気洗濯機	723	101.7	717	99.1
電気掃除機	308	79.7	307	99.6
電気がま*	701	93.7	714	101.8
その他(上記5品目以外)	9,127	104.2	8,835	96.8
白物家電機器合計	19,748	103.1	18,959	96.0

*電気がま:ジャー機能(保温機能)のないものも含む。

備考1:国内生産の実績見込み:2018年度上期は、経済産業省 生産動態統計を適用しました。

2018年度下期見込み及び2019年度見通しは、JEMAが策定しました。

2:端数四捨五入のため、積上げ値と合計値が一致しない場合があります。



【図5】白物家電機器の年度別国内生産額推移

(1)2018年度の国内生産実績見込み

2018年度の国内生産は1兆9,748億円、前年度比103.1%と、4年連続で前年度を上回る見込みです。

製品別にみると、電気冷蔵庫が97.2%、電気掃除機が79.7%、電気がまが93.7%と減少の見込みですが、ルームエアコンが107.0%、電気洗濯機が101.7%と増加となり、国内生産は前年度を上回る見込みです。

(2)2019年度の国内生産見通し

2019年度の国内生産は、1兆8,959億円、前年度比96.0%と、前年度を下回る見通しです。

ルームエアコンが、2018年度の記録的猛暑による高い水準に対する反動減で、92.2%と減少の見通しですが、電気冷蔵庫、電気洗濯機、電気掃除機、電気がまなど、国内生産は大容量製品や高機能、高付加価値製品を主体に堅調に推移する見通しです。

本資料に関する弊社お問い合わせ先

- 〔重電機器〕 TEL:03-3556-5885 FAX:03-3556-5890
重電部(調査統計課 市村・角田・細田)
- 〔家電機器〕 TEL:03-3556-5887 FAX:03-3556-5891
家電部(調査統計課 宮内・高橋)
- その他 TEL:03-3556-5882 FAX:03-3556-5891
企画部(広報室 中村・守田)

URL : <http://www.jema-net.or.jp/>